

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム (SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC30014
研究開発課題名:	タンパク質分子モーター計数装置の開発と事業化検証
研究代表者(所属・役職・氏名)	東北大学 大学院工学研究科 准教授 林 久美子

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

超高齢化社会ではアルツハイマー病などの神経疾患が重大な問題となり、神経科学及び脳科学分野の研究が盛んである。私たちは、神経科学分野の研究で欠かせない超解像顕微鏡などの顕微鏡技術に向けた顕微鏡動画解析ソフトウェアの開発を行っている。ソフトウェアを販売し社会に普及することで、これまで治療の難しい病気のメカニズムを解明し創薬を可能にしたい。直接のユーザーは神経科学者であるが、神経科学会は数万人規模の小さな限定された専門性の高い市場であるため、ビジネスモデルを考えることにより広い範囲で市場やユーザーを再発見する必要がある。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

ソフトウェア販売によって難病の創薬を助けることを目標に、学会でのアンケート実施や製薬会社へのインタビューを行った。SCORE イベントでのピッチ発表を通じてビジネスモデルを議論した。月 2 回のメンタリングを活用して、ビジネスモデルのブラッシュアップを図った。Demo Day に向けて MVP として簡易版ソフトウェアを作製した。当初はソフトウェアそのものを販売する小さいビジネスを想定していたが、これらの活動を経験して、ソフトウェアそのものでなくソフトウェアに付随するデータや情報を販売するエコシステムの規模の大きいビジネスモデルの可能性に気づくことが出来た。

3. 総合所見

極めて新しい技術シーズを基に困難が予想されたビジネスモデル構築に挑戦した姿勢を評価する。作成したソフトウェアを公開し、オープンサイエンスとして技術シーズの社会実装を探る試みも適切と考える。引き続き、事業化や技術移転を目指して、活動することを期待する。

以上